

令和5年度 学校自己評価(実施)

武蔵野音楽大学附属高等学校

教育目標	建学の精神として「(和)のこころ」を、教育の方針として「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」を掲げ、確かな技術の訓練、豊かな知識の吸収とともに美を鋭く感じとることのできる感性と創造性を培う。さらに、変化の激しい社会の要請に柔軟に対応でき、協調性に富むすぐれた人格の育成を目指す。
実践目標	「3P主義」(礼儀:Propriety)、(清潔:Purity)、(時間厳守:Punctuality)の実践

評価の基準	
A	達成(9割以上)
B	概ね達成(7割以上)
C	普通(5割以上)
D	不十分(5割以下)

計画		実施後の評価と課題				
評価項目	指導計画	評価の指標	実施・達成状況等	達成度	次年度への課題・改善	関係者による評価
1学習活動 (1)学習指導	・音楽科として特色ある教育課程を編成して、武蔵野音楽大学への学習の導入として多様な専門科目を設定する。指導は専任教諭のほか、附属高校の特色として大学教授等があたる。高大連携プログラムでは、生徒に音楽教育の新たな機会を提供し高校の枠を超えた学習体験を得ることができる。創立時より打ち出している一般教科の必要性も重視し、週6日の授業100単位(3年)・91単位(2年)・90単位(1年)を履修する。	・音楽科の高校としての特色を十分に生かし、生徒の進路に対応した教育が展開されているか。	・一対一の対面の個人レッスンによるきめ細かな実技指導を基盤として、演奏会や各行事での発表を通じ、学習の成果及び実技の向上が得られた。また、音楽科としての専門科目の授業および一般教科の各指導も相乗的な学習成果に結びついた。	A	・早朝、放課後に実技の練習を徹底させ、専門及び一般教科の予習・復習の習慣化により習熟度を高める。	A
	・選択科目として、専攻実技以外の楽器を選択できるよう「ウインド・アンサンブル」「弦楽アンサンブル」「声楽アンサンブル」「ピアノ・アンサンブル」の各授業を設定し幅広い技術を育成する。	・科目の目標は達成できたか。	・各授業で学んだアンサンブルの演奏会を当初の予定通りの形態で7月・11月・2月に行った。十分な成果を得られ、各科目の目標を達成した。	A	・演奏発表を通じ学習活動の効果をあげられるように実施する。また新たに演奏する楽曲について教員の指導のもと生徒自ら研究させる。	A
(2)総合的な探究の時間	・①「作曲研究」②「映画研究」③「スポーツ&レクリエーション」の3科目より1科目を選択し、1年間学習させる。	・学習活動を通して、それぞれの活動で十分に成果が得られたか。	・①では生徒が創作した作品を2回演奏会形式で発表した。②では鑑賞した映画の講評を実施、③ではチームによるオリジナルレクの実施や食育の一環として野菜づくりを年間通じて行った。	A	・それぞれの選択科目で生徒同士の協調性、探究心を育てる。	A
2特別教育活動 (1)儀式的行事	・入学式はバッハザール、卒業式はブラムスホールにおいて、本校の特色を生かし、厳粛な中に式を挙げる。また、始業式・終業式等の校長・副校長の訓話において、本校の教育理念である建学の精神や教育方針や「3P主義」の教育実践を示す。	・本校の基本理念の徹底を図るとともに、実行することの大切さが認識できたか。	・校長訓話等を通して、本校の教育理念である建学の精神や教育方針や「3P主義」の教育実践の徹底を図った。	A	・儀式的行事を通じて、生徒に本校の教育理念を認識させ、その意義をさらに理解させる。	A
(2)学芸的行事 ①校外演奏会	・第27回目となる「在校生によるコンサート」をブラムスホールにて開催し、在校生と卒業生による演奏を披露する。	・在校生及び卒業生の演奏が十分に披露できたか。	・当初の予定通りの形態で実施できた。研究発表の場として、生徒の向学心に応えるために毎年開催し、観客のご意見を頂き今後の指導の指針としていく。	A	・周到な準備と緻密な計画によって、一層のレベル向上を図る。	A
	②サマーアンサンブルコンサート 創立50周年記念コンサート	・全生徒が履修する前期の授業の成果を発表するコンサートとして実施する。7月にはサマーアンサンブルコンサートとしてブラムスホールにて行い、今年度は11月に創立50周年記念コンサートをブラムスホールにて演奏する。7月は、3年生を主体とした専攻実技によるアンサンブルの発表があり、11月は、全学年による各種編成の様々な形態のアンサンブルの発表をはじめ、特別なコンサートとしてプログラムを構成する。	・研究・発表及び演奏・演舞等について日頃の成果が十分に披露できたか。	・音楽科の特色を生かした多種多様な発表及び演奏等が披露できた。当日配布プログラムの表紙デザインや各演奏のセッティング等、一人ひとりが演奏以外でもたくさんの準備・運営に関わり、「生徒主体」で展開できた。創立50周年記念コンサートでは多くの卒業生に来て頂いた。その中で、個々の専攻実技のレベル向上も見られ、結果として大きな達成感が得られた。	A	・事前指導を一層徹底し、各プログラムの演奏レベルのさらなる向上を図る。2027年の本校東京都練馬区移転に向けても関連する演奏会として再設定していく必要がある。

③トライアルコンサート	・2年次の1月、主専攻の実技試験課題曲と同じ曲を1箇月前に演奏するコンサートとして設定する。	・実技試験、1箇月前までの曲の仕上がり、試験までの課題が考えられたか。	・1月26日(金)と27日(土)の2日間に分けて実施。試験前の試演会にもなり、充実した演奏会になった。	A	・緊張感を持った演奏を目指し、また反省点を各自が見出し専攻実技の向上にも結び付けていく。	A
④プロムナード コンサート	・3年次の2月、卒業試験後に新たな課題に取り組み、その成果を発表するコンサートとして設定する。高校最後の実技試験から約二ヶ月間という短い期間で新しい曲を仕上げていくことで、卒業後の新たなステージへさらにより形でステップアップさせる。	・卒業試験・大学入学試験後も緊張感を継続した学習ができたか。	・2月14日(水)に開催。ヴィルトゥオーゾコース受験生には試演会ともなり、充実した演奏会になった。受験生はその課題曲を、それ以外の生徒は新たな課題に取り組み演奏会に臨んだ。	A	・卒業試験後、ヴィルトゥオーゾコース受験生にとっても緊張感を継続した演奏を目指し、進学後の専攻実技の向上にも結び付けていく。	A
⑤ドリームコンサート	・全生徒が関わる後期のアンサンブル授業の成果を発表するコンサートとして設定する。オルガン・2台ピアノの演奏に続き、各種アンサンブル(声楽・弦楽・金管・木管・打楽器・ウィンド)の発表を行う。入間・飯能・日高各市の教育委員会より後援を頂き、広報活動も幅広く実施する。	・年度末における学習の成果が十分に発揮できたか。10回目を迎える節目の開催としても地域の方々に歓迎され充実した演奏会となるか。	・会場であるパッサザール(1202席)に観客が約600人集まった。入間・飯能・日高各市の教育委員会より後援を頂き、当日は入間市長・教育長も鑑賞する等地域コミュニケーションとしての成果を上げた。生徒たちは演奏だけでなく、スタッフとしての仕事に一人ひとりが責任を持って取り組み、立派に発表でき、達成感を十分に味わうことができた。	A	・今後も練習やリハーサルや広報活動等の日程計画を密にし充実した発表に近づけるようにする。2027年の本校東京都練馬区移転も視野に入れ、練馬区・入間市ともに幅広い地域活動へ再設定していく必要もある。	A
⑥本校外のコンサート	・7月23日(日)武蔵野幼稚園納涼会、8月23日(水)避難訓練コンサート2023(入間市産業文化センター 主催:FMチャッピー・(公財)入間市振興公社)、11月18日(土)・12月16日(土)入間市文化創造アトリエ AMIGO!「アミーゴで学ぶ《F. ショパン》」(ナビゲーター:本校教諭 演奏:附属高等学校生徒)。	・地域コミュニケーションの一環としての演奏会や講演の演奏者として参加することで本校生徒にとって貴重な経験ができたか。	・各演奏会の趣旨を踏まえて選曲・編曲し、事前のリハーサルを実施し本番を迎えた。音楽科の高校の専門性を活かしつつ地域コミュニケーションを通じて生徒が貴重な本番を体験できたことは大変意義があった。	A	・今後も地域コミュニケーションの一環として、本校の専門性を活かしつつ多様な演奏会のニーズにこたえ、生徒の演奏者としての経験値を得ていく。	A
(3)体育的行事 スポーツ大会 体育授業発表会	・体育科教員を中心に計画・準備を行い、6月に実施する。1人2~4種目に出場し、競技は、加算二人三脚、長距離玉入れ、買い物リレー、応援パフォーマンスを行う。後期に授業で培ったパフォーマンスの発表会として体育授業発表会を行う。	・事前準備や体育科教員の指導のもとに、計画どおりに実施できたか。 ・怪我なくクラスの団結力が発揮できたか。	・加算二人三脚、長距離玉入れ、買い物リレーの他、各学年対抗の応援パフォーマンスは、それぞれの学年毎で趣向を凝らし特色があり、大いに盛り上がる事ができた。2月2日(金)に実施した体育授業発表会はジャンプロープ(なわとび)を使ったパフォーマンスを学年毎に発表した。	A	・体育科教員の指導のもとに、生徒が他者と協働し自己の運動や健康増進として心と体を鍛える行事となるようにしていく。	A
(4)旅行・野外活動的 行事 ①校外学習	・集団行動に関する教育および自然に親しむことを目的に、5月に校外学習を実施する。今年度は秩父の長瀬・宝登山周辺に行く予定である。「地球の窓」とよばれる長瀬の岩量を代表として、地質学的に価値がある地域:ジオパーク秩父の学習も兼ねて実施する。	・事前の計画に沿って、集団行動ができ、自然に親しみ、地域学習も兼ねて学習できたか。	・校外学習は雨天のため、本校体育館にて、スポーツレクリエーションを行った。親睦もかねてバドミントン大会を実施した。学年をこえた交流戦でもあり、大いに盛り上がった。	A	・集団行動に関する教育や自然に親しむことを目的に、今後も内容の充実も含め継続していく。	A
②修学旅行	・2年次の6月に実施する。国内における著名な場所での観光だけでなく、様々な体験学習を通じて、新しい視野を広げ、普段の学校生活では味わえない経験を得ることも重要視する。	・学習活動、体験学習および鑑賞を通して十分に成果が得られたか。また、集団行動を守ることができたか。	・静岡にあるヤマハの楽器工場(ピアノ・管楽器)見学、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン、広島では、原爆ドーム・平和記念資料館・矢川ピアノ工房を訪ねた。作曲専攻者がオリジナルのピアノ連弾作品を書き下ろし平和学習(被ばくピアノ使用)を実施した。	A	・集団行動を通じて社会性を養い、見識をより高める場とする。日本の歴史・文化・技術を知る大変貴重な経験としても位置付ける。	A
(5)鑑賞行事 ①芸術鑑賞	・6月7日(水)上野の国立西洋美術館、12月13日(水)、文楽鑑賞教室[シアター1010(足立区文化芸術劇場)]	・事前学習を含め、作品の内容と、芸術史の一端を理解できたか。	・各回とも多角的で綿密な事前指導を行い、密度の濃い鑑賞ができた。国立西洋美術館では学芸員による講義を聴いた。	A	・芸術鑑賞は、専攻の音楽と関わり深い分野を選び今後も継続実施したい。	A

②音楽鑑賞	サントリーホール・新国立劇場・日生劇場等各主催の演奏会を鑑賞する。鑑賞マナーについても、事前に指導する。7月16日(日)《二期会創立70周年記念公演》オペラ『椿姫』[東京文化会館]、11月10日(金)オペラ『マクベス』[日生劇場]、11月17日(金)サントリーホール&ウィーンフィル交響楽団の青少年プログラム参加	・作曲家と作品が十分に理解できたか。プロの演奏家・オーケストラの練習見学や本番の演奏を通して新たな見識を得られたか。	・芸術鑑賞とも運動し、時代背景や作品の構造、作曲家についての事前指導を行い、演奏曲目への理解を深めた上で鑑賞した。武蔵野音楽大学主催の各演奏会も随時生徒が希望しそれぞれ鑑賞した。	A	・作品の理解を深めることで、音楽芸術に対する興味・関心が高まるので今後も積極的に実施していきたい。	A
3 生徒指導	・生徒の健全育成及び基本的生活習慣の確立の視点に立ち、定期的に登校指導、交通街頭指導、放課後の巡回、スマートフォンの使用ルールやネット・SNS上のマナーやモラルについて指導する。・服装は換気に伴う柔軟な対応を昨年同様実施した。	・決められたルールに則り、高校生活が送れているか。	スマートフォンの使用ルールやSNS上のマナーやモラルについて指導し、生徒もよくルールを守ることができた。人権教育や薬物乱用防止教室を通して生徒の健全育成及び基本的生活習慣の確立を目指した。	A	・今後も引き続き、時代の変化に対応し柔軟な生徒指導を実践する。・服装は常に状況判断したい。	A
(1)放課後の巡回指導	・放課後の巡回指導をおこない、練習室の使用方法和下校について指導する。	・練習室の使用について意識の向上が図られたか。	・下校時刻の厳守や練習室の使用におけるマナー、また、引き続き感染防止対策等の意識の向上を図った。充実した練習環境が保たれていた。	A	・今後も引き続き、練習室の使用について指導していく。	A
(2)交通街頭指導	・登校指導、通学路の安全点検、安全意識と行動(犯罪被害の防止…制服の着方も含む)、雨の日の安全行動等の指導を実施する。	・交通ルールを守り安全に登校しているか。	・登校時、通学路の安全点検、通学時の安全指導、雨の日の安全指導を図った。	A	・交通ルールを守り、登校時、通学の安全指導、通学路の安全点検を今後も継続実施したい。	A
4 進路指導	・進路希望調査を踏まえて進路相談を実施する。また、大学の職員を招いて各学科・コースの特色に関する説明を受け、進路に対する意義付けを行う。	・各学部・学科について理解できたか。また、進学に対する意識が高揚したか。	・2年次、3年次と継続して進路意識の向上が図れた。	A	・早い段階で、実技担任や保護者とのコンタクトを密にする。一年次より生活面での指導も徹底を図りたい。	A
	・武蔵野音楽大学進学にあたり、内部推薦制度が導入されているため、3年生にその制度に関する内容・手続き等について説明する。ヴィルトゥオーゾコース受験希望者もいるので、年間を通してきめ細かな進路相談を実施し、生徒自身の目的を達成できるよう指導する。	・内部推薦制度および入試の手続きは理解できたか。また、全員の進路指導は適切であったか。	・平素より専攻実技担任や保護者との連携を取り、きめ細かな進路指導を行った。ヴィルトゥオーゾコースへの受験者もいるため、進学対策授業の充実を図った。	A	・内部推薦制度と手続きを含めた大学入試システムの関連を注視する必要がある。変更もあるので新しい情報を確認するよう努める。	A
5 安全管理 学校環境の点検	・校内巡回を通して、安全点検を定期的実施する。内容は照度計測、飲料水の管理、通学時及び学校行事前の安全点検を行う。また、事故防止教育に取り組む。	・校舎内、学外活動における環境点検は適切に実施できたか。 ・安全に配慮する。	・練習室を個人に割り当て、環境面の整備と同時に感染対策の徹底を引き続き実施した。入間校舎施設の不具合が生じた時は、高校職員を中心に担当部署と連携しその都度対応した。	A	・施設設備の充実をはじめ、既存の施設の安全管理点検を担当部署とともにさらに強化する必要がある。	A
6 保健管理 (1)疾病予防	・全校集会やHR等で疾病に対する注意を喚起する。学校行事に際して事前の健康調査を行い、生徒の既往歴や治療状況を把握して、行事中の事故を未然に防止する。	・毎朝の健康観察フォームで健康状態を把握する。また、健康調査は計画どおり実施できたか。	・感染防止対策として授業や全校集会で講義を行った。毎授業日に健康観察フォームで生徒の体温、健康状態を把握できた。	A	・新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の動向を見ながら、できる限り感染症の予防対策に努めたい。	A
(2)相談活動	・クラス・学年を超えた交流を図り、生徒間で励まし合い、支え合って、より豊かな学校生活を送るための場を創る。	・健康相談、カウンセリングが適切に行われているか。	・年に2回心のアンケートを実施し、普段は見せない生徒の内面を調査した。また、心の健康授業をクラス単位で実施した。	A	・ストレスチェックアンケートを年に2~3回実施する。	A

7 学校財務	・本校は、武蔵野音楽大学および幼稚園とともに、学校法人武蔵野音楽学園の1教育組織として位置づけられ、法人全体として一体運営されている。武蔵野音楽学園は、文部科学省認可法人として毎年、学校法人会計基準に基づいた決算を行い、会計監査法人の監査を受け、その概要を公表している。令和5年度の決算については、令和6年7月より、当学校法人のウェブサイトに掲載する。	・健全な財務状況が展開されているか。	・「基本金組入前当年度収支差額」は支出超過ながら、外部借入はなく、財務状況は引き続き健全である。	A	・令和6年度以降も、支払超過額の縮小に向けて鋭意努力を継続する。	A
8 職員研修 (1)全教員研修会	・年度当初に校長・副校長の講話を受ける。入学式後の年度初め連絡会では、各教科・専攻毎に分かれ、専攻実技の指導及び教育内容全般について協議を行う。	・年間を通し、教育活動がスムーズに展開できるよう周知できたか。	・講師を含む全教職員が一堂に会し、年間計画に基づき指導内容の確認ができた。	A	・一般教科・実技等、指導上の問題のさらなる改善を図る。	A
(2)高校研修会	・年度末に学園による職員研修会を実施し、教育活動全般について総括する。また、武蔵野音楽学園の全職員に対し、理事長・校長から講話を受ける。	・教育活動推進のための、具体的な対応策が示されたか。	・教育活動、校務運営、生徒募集、授業展開等、多くの具体策が示された。	A	・多様な教育現場の状況に対応するため、習熟度別学習の拡大を図る。	A
9 講座 (1)中学生のための音楽基礎講座	・中学生を対象に、音楽基礎講座を年10回開催する。当日は体験レッスンを設定し専攻実技の基礎力の向上を図る。体験授業では音楽理論やコルユープンゲンを実施する。10回目に入試対策直前講座(2024年1月6日(土))実施する。	・体験レッスンや講義内容の、さらなる充実・改善を図る。	・専攻実技や聴音は引き続き個別指導を展開した。個々のレベルや要望に応えることができた。	A	・江古田での実施、レッスンや講義内容の、さらなる充実・改善を図る。	A
(2)体験レッスン&パーソナルアドバイス	・中学生を対象に、体験レッスンを年3回開催する。専攻実技の基礎力の向上を図る。	・体験レッスンの、さらなる充実・改善を図る。	・個別指導の体験レッスンのみを行った。個々のレベルや要望に応えることができた。	A	・多様なニーズに対応するため、さらなる内容の充実を図る。	A
(3)県主催・後援事業	・小学4年生から6年生を対象に「リアル体験教室」を入間キャンパスで開催し、各専攻実技の個別レッスンと、指揮・作曲のグループ講座を開催する。	・専攻実技指導は、十分にできたか。	・受講生に対し、各講座やレッスン等、丁寧な指導を展開し、受講生が満足する対応ができた。	A	・レッスンや講義内容の、さらなる充実・改善を図る。	A
10 広報活動 (1)オープンキャンパス	・オープンキャンパスを、江古田キャンパスで5月14日(日)、6月18日(日)、7月16日(日)、8月6日(日)、9月10日(日)、11月26日(日)、3月24日(日)の計7回開催する。	・生徒・保護者に対し、教育内容・入試全般について周知できたか。	・ガイダンスでは、本校の概要及び教育活動、入試内容を十分に周知できた。	A	・個別対応については、さらにきめ細やかに展開にする。	A
(2)小・中学生のための高校説明会	・入間キャンパスにて7月2日、10月15日の日曜日に開催する。	・参加者に教育活動・授業内容について周知できたか。	・ガイダンスや体験授業及び体験レッスンを通して、本校の概要及び教育内容を周知できた。	A	・様々な講座が増えたため、他の広報活動との差別化を図る。	A
(3)受験講習会	・受験講習会は、受講生の要望に応え年4回開催する。①夏期8月7～9日、25～27日 ②秋期9月17・18日、③冬期12月23～25日 ④春期3月25～27日に実施する。	・受講生に対し、丁寧な対応と指導ができたか。	・受講生に対し、各授業やレッスン等、丁寧な指導を展開し、個別相談にも親身に対応できた。	A	・各講習会の内容を精査し、さらなる充実・改善を図る。	A
(4)学校説明会	・県外での学校説明会は、各県同窓会支部と協力し、大学主催で開催される。 ・埼玉私学フェア(埼玉県私立中学高等学校協会主催)・彩の国進学フェア(読売新聞東京本社さいたま市局主催)や中学校の先生方対象の学校説明会に参加する。	・生徒・保護者に対し、本校の教育内容・学習状況・施設設備等、十分に周知できたか。	・県外での学校説明会では各県の大学同窓会役員との協力の下、教育活動及び入試内容を説明し、本校の特色や入試状況を周知することができた。各フェアにおいても本校の概要及び教育内容を周知できた。	A	・今後さらに連携を強化し、各県の大学同窓会支部の協力の下、教育活動及び入試内容を説明し、本校の特色や入試状況を周知する。	A